



曾根田通信

第 19 号

平成 29 年 5 月

株式会社追客力 電話：03-4455-9265 F A X：03-5539-4783

■■■この曾根田通信は、私がこれまでご縁のあった方にだけ差し上げている個人通信です■■■

暖かくなったり涼くなったりと、天気や気温が忙しいですが、ご体調いかがでしょうか？のどの調子がおかしくなったときに薬に頼らず、龍角散のど飴を舂め続けて治したのですが、その味がなぜかクセになってしまい、治った後も常にカバンに忍ばせています。

◆ 待望の補助輪付き自転車 ◆

ちょうど一年前のニュースレターに息子に自転車を買ってあげたいと書いた記憶があります。

そのときから近所の交通公園で自転車を練習していました。交通ルールを覚えてもらうための公園なので交差点ごとにルールをきちんと守っているかチェックする係りの人がいます。昨年、息子が練習していると信号無視を一度してしまった時に、かなり大きな声で怒られた時がありました。それから係りのおじさんのことが怖くなってしまったのか「自転車はもう乗らない～」と言って自転車に乗らなくなってしまったのです。

今年の2月頃に私の自転車に乗せて(お巡りさん、二人乗りごめんなさい)、自転車の楽しさを教えてあげたところ、かなり楽しかったよう。翌日に久しぶりに交通公園行く？と言ったところ「行ってみる～」と前向きに返事し、久しぶりに自転車に乗ることができました。

妻は自転車を置く場所がないから、と反対をしていますが、このタイミングを逃したら買ってあげるタイミングはなくなると感じ、すぐに自転車屋に行きお気に入りの自転車を選定。翌日、妻も連れて数件の自転車屋を巡り、結局一番初めに気に入った自転車を購入しました。一年越しでようやく買ってあげることができました。かなり遅くなってしまい、息子には申し訳ないことをしたと大反省です。



購入後は毎週末、自転車に乗っています。自転車で20分くらいかかる公園に連れて行きましたが、泣きながらもしっかりと漕いでいました。補助輪なしを目指しつつ、まずは自転車の面白さを感じてもらおうと思います。

◆ 今月の名言 ◆

すべては出会いの一瞬できまる／だから／その時のために／心を磨いておくのだ／名刀のように

坂村真民（仏教詩人）

すぐに脇目が気になってしまう性格で、なかなか一つのことを集中してやり続けられない自分がいます。心を磨く、というのは脇目など目もくれず、一つの道を突き進み続けることなのでしょう。

何かいいことないかな、と絵空事を期待する時間があるくらいなら、今自分ができていることに手をつけていく、という気構えで一瞬一瞬を生きていきたいですね。

そしてきっとそういう気構えが幸運を引き寄せると信じて。

◆ 追客サプリ ◆ 番外編 画像認識技術はここまできている

「これは80%の確率で鳥の画像である」。機械がある画像を読み込んで、そのように判断するのが画像認識技術です。ちまたで騒がれているAIの1つの分野ですが、先日、勉強会でその現場の最先端の技術について話を聞いてきました。



AI ではもう鳥と認識している！

不動産ポータルサイトのHOME'Sを運営するLIFULLではすでに画像認識技術を活用しています。

例えば、写真の良し悪しで反響数が増加するというのは業界人なら誰でも知っていることです。

中には、ポータルサイトに写真を掲載する際、お風呂の画像を登録すべき欄で、あまり見栄えがしないから、という理由でリビングの写真を登録してしまうところさえあります。

これまではそういった行為をポータルサイトのサポート部門が人の力でチェックし、注意喚起していました。しかし、画像認識技術によって、お風呂の画像を登録すべきところに、リビングの写真を登録しようとすると、すでに登録できないようになっています。



これがいいのか、悪いのかの議論はありますが、これまで人がやらなければならないことが、機械が自動的に判別してくれるようになっていきます。

これを応用すれば、撮影してきた写真のあるフォルダに保存しておけば、自動的に登録すべき欄を判別・登録してしまうこともできると思います。(手間を省きたい不動産会社の機能ですね)

「この写真はお風呂ではないので登録不可です」

さらにこの技術が進むと、現在、営業担当が撮影し、写真を加工して(トリミングや色味の調整など)、管理画面を通じて画像を登録という作業が、写真さえ撮影すればあとはAIが過去の事例をもとに自動的に画像を加工して、写真を登録してくれるようなこともできくるはずです。



こんな加工が自動的にできる時代がやってくるかも！？

これらを行うためには膨大なデータが必要なのは言うまでもありませんが、データさえあれば技術的には1~2年でできるのではないのでしょうか。

営業担当が営業に注力できるという面においては歓迎すべきことだと思いますが、ますますおもてなしや心配りなど、人でなければできない部分での差がつく時代になってきそうです。技術の進歩は本当にすごいので、皆様も常にウォッチしてもらいたいと思います。

◆ オススメ書籍 『いちばんやさしいグロースハックの教本』 ◆

グロースハックという言葉をご存知でしょうか？

3、4年前に流行った言葉で、一般的にはマーケティングとサービスを融合させて事業を加速させる手法という意味だそうです。

たとえば、ご存知の方もいると思いますが hotmail というサービスは、ユーザーが送るメールの最下部に「PS I love you. Get Free Email(追伸 愛してるよ。Hotmail で無料メールをゲットしよう)」と表示することで、受信者に hotmail の存在を認知してもらい一気に利用者が拡大しました。(送信されたメールの全てが広告になったということです)

この本では WEB サービスという分野において、いかにハマってもらうサービスを作るか、再現性があるように理論と実例をつかってご紹介しています。

たとえば、何かにハマる、ということは一度だけでなく、何度も使ってもらう必要があります。

そのためにはサービスに予測不能性(予測できないこと)が必要であり、それがどうなるか楽しみ！という衝動につながり、再びアプリを開いてもらうための動機になる、というわけです。この例を噛み砕いて言うと、飽きさせないということですね。

これはあくまでグロースハックの1つなのですが、アプリだけでなく、あらゆるビジネスに応用できるないようです。自社のサービス、あるいは自社にはハマってもらうためにはどうしたらいいのか、新しい視点で考えられると思いますので、ご興味のある方はお手にとってみてください。



～ 発行者コラム ～

- ゴールデンウィークに以前から気になっていた、相田みつを美術館に行ってきました。なんと有楽町の国際フォーラムの中にあるんですね。すごいところにあるものです。GW中にわざわざそんなところに行く人なんていないだろうと思っていたら、かなり混雑。そして入館して15分くらいすると、館長の気の向くまま話というイベントを開催するとのこと。行ってみると、館長はなんと、相田みつをさんのご長男でした。相田みつをさんの仕事環境や仕事に対する姿勢を息子様の声を通じて知ることができるとは思っていなかったのも、とても得をした気分でした。
- 4月に母の友達が1週間ほど自宅に泊まりに来ました。ビビリ屋の息子は怖がると思っていたのですが、遠慮したのは出会った後の10分程度。その後は、何かしら母の友達に絡みたがり、私も妻もびっくり。お互い、どっちに似たんだろう、と訝しがっています。

【プロフィール】

【氏名】 曾根田 太郎
【会社】 株式会社追客力
【出身地】 東京都江戸川区
【趣味】 読書(特に歴史小説)、靴磨き
【モットー】 七転び八起き
【その他】 久しぶりによく自転車に乗っています。だいが錆び付いて来ているので新しい自転車を購入するか検討中です。

【経歴】大学卒業後、会計系コンサルティング会社を経て、大手不動産ポータルサイトを運営する会社に営業として転職し、ITと不動産について学ぶ。その後、WEBマーケティング会社を経て、(株)追客力を設立し、HPを使った営業支援システムを開発・提供しています。



曾根田太郎